

農事組合法人「たち」 代表理事

大槻昭男さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「館町の農地の多くをわが法人に任せてもらっている。責任を持って管理していきたい」と話すのは、綾部市館町で農事組合法人「たち」の4代目代表理事を務める大槻昭男さん(74)。

同町は綾部市の西部に位置し、圃場(ほじょう)整備が完了して1枚が1畝を超える大区画圃場が並ぶ農業が盛んな地域。同町内の農地26畝の内19畝を預かり、水稻を中心に栽培を進めて、昨年10月には法人設立から10年を迎えた。

監事や理事を務めた後、昨年4月に4代目の代表理事に就任した大槻さんは「もうけを出すことが目的ではない。地域が一体となって地域振興に貢献していきたい」と話し、先代までの代表理事の取

り組みを継承して10年先を見据え、加工用米や畑作物の拡大にも意欲を見せる。

「設立からJAや行政から指導を受け、水稻を中心に小麦、小豆お茶に取り組んできたが、今後も積極的に様々な取り組みを進めていくため、法人の情報をもとめた『農事たち通信』を手作りして関係機関に配布することで、関係機関との連携強化に努めている」と大槻さんは話す。



▶農業機械の前で今後について語る大槻さん

法人での農作業は、現在21人の他に職業を持つ地域住民と雇用契約を結び、出役ができるときに出生てもらう方式で取り組んでいる。加えて、昨年からさらなる労働力確保のために、他地域の兼業農家などにも声を掛けてオペレーターとして一緒に取り組むなど、地域の枠を超えた新たな交流もスタートさせた。

「昨年1月の大雪で茶園の被覆用の棚に大きな被害が出たが、関

係機関の皆様の支援や綾部市茶生産組合連合会のボランティアのお陰で同年12月には復旧が完了した。何とか収入減を最小限に抑えられたが、いつ何時大きな災害に遭うかわからない。備えをしっかりとって同じような被害が出ないようになりたい」と、大槻さんは話す。「高齢化や後継者不足が深刻で、どうやって農地を守るかを考えさせられるが、役員が都度集まって実情を精査し、方針を決めている。今後は、作る農作物の比率を食用米から畑作物の小麦や小豆にシフトし、そして米は加工用米にシフトして経営の柱にしたい」と、大槻さんは今後の方針を語る。

■法人所在地 綾部市館町宮ノ前89の1。(電)080(1426)5028。

■法人概要 2007年10月設立。役員5人、監事2人、組合員50人。経営面積 19畝(水稻7・9畝、小麦6畝、後作で京都大納言小豆2畝、茶1・7畝、他法人への貸付農地3畝)。農業機械 トラクター・コンバイン・自走式草刈り機各2台、田植え機・乗用管理機・茶摘み機・水稻種子コーティングマシン各1台。

地域と一体農地を守る